

霞川・入間川巡り コースポイント

1. 霞川・入間川

霞川は、東京都青梅市の霞池を水源とし、青梅市、入間市を流れる荒川水系入間川の支流で、延長 15.8km、流域面積 26.8km²の一級河川。別名桂川ともいう。入間川は、標高 1,294m の大持山の南東斜面に源を発し、飯能市、入間市、狭山市を流れ、川越市大字古谷本郷で荒川に合流する延長 63km、流域面積 721.0 km²の荒川水系の一級河川。上流は名栗川とも呼ばれる。荒川の支流としては最長。江戸時代のころは江戸の市中まで通じる大事な船の交通路。

2. 治水碑

入間市黒須の霞川での破堤の記録。傍らには亡くなった人の慰霊のための供養碑も。碑文の内容は、「当黒須地区は古来霞川の氾濫による被害が沿岸随一と言われ、近くは昭和 20 年 6 月地区民必死の努力も効なく、堤防は遂に破壊され、家屋の流出のみならず、尊き人命をも失いたる惨事を惹起しました。幸い国においても霞川改修の必要を認め、去る 29 年当該地区改修工事を施工するにいたりました。」と記されており、被災から工事着手までの年月の長さから、戦争による疲弊が推察される。



3. 床固工と魚道

霞川は砂防指定がなされているので、ところどころに河川勾配を緩くするための床固工(落差工)が設置されている。魚が遡上・降下できるように魚道が設置されている。魚道のタイプとして、ハーフコーン型魚道が設置されている。

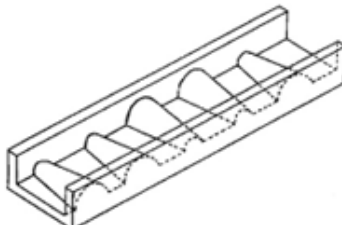
ハーフコーン型魚道の設計マニュアル
東京都農業振興事務所振興課農業基盤整備係

第一章 ハーフコーン型魚道の特徴と構造

I ハーフコーン型魚道の定義

形式名称：半楕円錐柱隔壁型魚道
通称：ハーフコーン型魚道（多摩川式）
半楕円錐柱隔壁をハーフコーンと呼ぶ

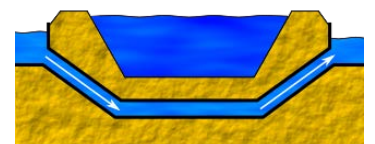
考案者：東京都産業労働局農林水産部魚道会議
開発年度：平成 9 年度 大丸用水堰（多摩川）
魚道構造：魚道本体水路にハーフコーンを 2 本づつ向きを交互に並べて設置し、反転させた流れを形成させる。



4. 赤間用水伏せ越し

赤間用水(入間第二用水)は、入間川・笹井ダムから取水して霞川を伏せ越して(サイフォン原理による立体交差)、狭山市から川越市を経て新河岸川につながる用水。

伏せ越し(ふせこし、ふせごし、伏越)は、水路工事における工法・技法、およびそれによる工作物のことである。伏せ越し工法(ふせこしこうほう、ふせごしこうほう)とも呼ばれる。Wikipedia



5. 入間川合流点

加治丘陵を南北に挟み入間川と霞川がこの地で合流している。この場所は水鳥の楽園として多くの鳥たちが水辺で遊び、また釣り場として人々に親しまれている。夏には涼しげな水音に清涼感を覚え、秋には虫の音が響く中やさしい風を感じることができる。入間市景観 50 選に選定されている。



6. くぬぎ山

クヌギの木が集団的に生えている。ドングリの実を集める近隣の黒須小学校の児童の遊び場ともなっている。クヌギはブナ科コナラ属の落葉高木。コナラとともに雑木林の景観を創り出す代表的な樹種として知られる。樹皮から染み出す樹液にはカブトムシなどの昆虫がよく集まり、実はドングリと呼ばれ、材は薪や家具など様々に利用されてきた。

7. 湧き水

河岸の一部から伏流水が常時流れ出している場所。小さなエビなどが見られる。

8. 豊水橋床固魚道

豊水橋は、入間市春日町と狭山市根岸及び笹井の境にある入間川にかかる国道 299 号及び国道 407 号の道路橋である。地元では「ほうすいばし」と呼ばれているが、「とよみずばし」が正式な読み方。豊岡町と水富村を結ぶことからその名がついた。橋脚の深ぼれを防ぐための床固工の落差を魚が遡上・降下できるように階段式の魚道が設置されている。

